

県内中小企業の経営状況

緩やかな持ち直しの動きが続いている。
先行きには不透明感がみられる。

経営者の景況感DIは4期連続で改善し、前年同期比で1.0ポイント近く上昇した。業種別にみると、製造業は改善に転じ、非製造業は4期連続で改善した。先行きについて製造業、非製造業とも「良い方向に向かう」とみる企業が減少し、「悪い方向に向かう」とみる企業は製造業で増加した。

売上げDI、資金繰りDI、採算DI、設備投資の実施率は全て改善または増加に転じた。

来期については売上げDIと採算DIは引き続き改善する見通しだが、資金繰りDIと設備投資実施率は悪化または減少する見通し。

注1) 本文中の各DI値については、例えば「増加した」企業割合と「減少した」企業割合を四捨五入して表記しているため、±0.1の範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：平成24年1～3月期、「当期」：平成24年4～6月期、「来期」：平成24年7～9月期

1 経営者の景況感と今後の景気見通し

景況感DIは 65.8 となり、4期連続で改善。前年同期比9.8ポイント上昇。

業種別にみると、製造業は2期ぶりに改善し、非製造業は4期連続で改善した。先行きについては製造業、非製造業とも「良い方向に向かう」とみる企業が減少するとともに「悪い方向に向かう」とした企業は製造業で増加している。

<景況感DIの推移>

	当 期	前 期	前年同期
全 体	65.8	69.5	75.6
製 造 業	64.9	67.0	69.6
非製造業	66.5	71.2	79.6

<「良い方向に向かう」と回答した割合>

	当 期	前 期
全 体	4.3%	5.4%
製 造 業	5.3%	7.2%
非製造業	3.7%	4.2%

<「悪い方向に向かう」と回答した割合>

	当 期	前 期
全 体	37.1%	35.8%
製 造 業	35.2%	31.3%
非製造業	38.4%	38.8%

2 売上げについて

売上げDIは 21.5 となり、2期ぶりに改善。来期も改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げDIを上回る見通しである。

<売上げDIの推移>

	当 期	前 期	前年同期	来期見通し
全 体	21.5	28.4	38.0	16.5
製 造 業	22.0	24.0	32.7	17.0
非製造業	21.2	31.4	41.5	16.2

3 資金繰りについて

資金繰りDIは 20.9 となり、2期ぶりに改善。来期は悪化する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業は当期の資金繰りDIを上回り、非製造業は下回る見通しである。

<資金繰りDIの推移>

	当 期	前 期	前年同期	来期見通し
全 体	20.9	28.9	34.6	22.2
製 造 業	22.7	26.5	33.0	20.9
非製造業	19.7	30.6	35.7	23.0

4 採算について

採算D Iは 33.0となり、2期ぶりに改善。来期も改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iを上回る見通しである。

<採算D Iの推移>

	当 期	前 期	前年同期	来期見通し
全 体	33.0	39.4	46.6	25.9
製 造 業	33.8	36.4	42.1	23.5
非製造業	32.5	41.4	49.7	27.6

5 設備投資について

実施率は18.2%となり、2期ぶりに増加。来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業は3期連続で減少し、非製造業は2期ぶりに増加した。

来期については、製造業、非製造業ともに減少する見通しである。

<設備投資の実施率>

	当 期	前 期	前年同期	来期見通し
全 体	18.2%	16.8%	14.4%	15.8%
製 造 業	20.4%	21.7%	18.7%	20.1%
非製造業	16.8%	13.6%	11.5%	13.0%

6 ヒアリング調査の概況 (詳しくは13頁以降をご覧ください)

景 況 感

製 造 業：持ち直しの動きに陰りがみられる

小 売 業：厳しい状況がみられるものの、一部に持ち直しの動きがみられる

情報サービス業：厳しい状況がみられるものの、持ち直しの動きが続いている

建 設 業：厳しい状況が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる

企業の声

「決算期末に増加した受注やタイ洪水特需も3月末で一服してしまった」(一般機械)

「リーマンショックで落ち込んだ景気が復活した頃に震災が発生して再度落ち込み、今年に入って復活してきたという感じである」(銑鉄鋳物)

「小ロットや短納期対応で残業代等もかさみ、非効率になっている」(金属製品)

「契約更新で電気代値上げが現実のものとなり、転嫁できず採算は一層悪化」(印刷業)

「新興国などにおいて、日本の売上が韓国にシェアを奪われている」(電気機械)

「消費税増税や株安など、消費者が財布の紐を締める要素ばかり」(スーパー)

「こういうときでも調子のいい業種はあり、工場建設の話もでてきている」(建設業)

特別調査 (詳しくは20頁以降をご覧ください)

- 1 雇用者数の動向と過不足感について
- 2 輸送コストについて